

東日本大震災を

後世に伝える為のプロジェクト



この度、3・4月号の機関誌刊行にあたり、忘れてはならない東日本大震災について、現地で活動している方々の生の声を伺うべく、被害の大きかった陸前高田市で活動されている「認定特定非営利活動法人 桜ライン311事務局」へ原稿執筆を依頼致しました。

「桜ライン311」とは、陸前高田市の津波到達点上に桜を植樹し、震災を後世に伝える為のプロジェクトの事です。

陸前高田＝津波という今の認識が後世に陸前高田＝桜となってくればという願い、震災の記憶を石柱や石碑ではなく「桜」で後世に伝えていくコンセプト等、百年後の未来に向けた具体的な活動が高く評価され、2014グッドデザイン金賞を受賞されているNPOです。

(事務局 金坂)



早くもあの大震災から4年が経ちました。東日本大震災の悔しさを後世に伝えなくてはならない。

そんな強い思いをもにした陸前高田出身者で「桜ライン311」の活動が始まりました。

プロジェクトは陸前高田市内津波の最大到達地点170kmに、10m間隔で桜を植樹するという明確なもの。

2014年12月までに767本の植樹が完了していますが、目標としている17000本という数字から、数十年を要するであろう壮大さがお分かりいただけるでしょう。

それでも全国から募ったボランティアの手で、一本一本植樹していくのには大きな意味があると感じています。

参加して下さる方々は震災前まで陸前高田を訪れたことがない方が大半です。皆は口を揃えて言います。「本当にここまで津波が来たのか・・・」

実際に、「あの日」の津波到達点に立ち、それぞれの想いを巡らせることで、自分たちの防災への意識喚起にも繋げてほしいと切に願います。

昨今、多発する自然災害のニュースを悲劇として終わらせることなく、次の世代へ

引き継いでいけるように。そして災害により亡くなる方がゼロとなるように。

今春3月にも植樹会が開催され、新たな桜が陸前高田に根を張ります。

しかし、桜ライン311の活動は「植えて終わり」ではありません。

もし100年後、1000年後に同規模の津波が発生した際、過去の津波の教訓として、また「命を守るライン」として位置付けていきたい。

そのための伝承と管理が必要不可欠となります。

4年という節目ではありますが、まだまだ復興の途中。

私たちの活動も、早くラインを完成させたい気持ちとは裏腹に植樹地の確保が大きな課題でもあります。

それでも、今は陸前高田の復興に歩みを合わせながら、一歩ずつ着実に進めて参ります。

儂くも力強く咲き誇る、まだ小さな花びらに想いを馳せながら。

認定特定非営利活動法人

桜ライン311

岩手県陸前高田市高田町大隅93-1

高田大隅つといの丘商店街 9号

TEL/FAX 019214713399